

留学体験談

理学部 松岡花奈

私は、アメリカのロードアイランド州にあるロードアイランド大学に2学期間（8か月間）の交換留学、インドネシアに3週間、実践活動を行った留学を経験しました。留学のテーマは、“シカによる森林被害を ICT 技術で減らし、林業を再興する”です。

～留学のきっかけ～

留学のきっかけは家族です。母が「大学時代に留学に行ってよかった。」という話を聞かせる機会が多く、妹も高校時代に1年間留学して「留学に行ってよかった。」と言っていました。正直、今いる環境に身を置き続けることに息苦しさを感じており、あまり海外経験はありませんでしたが、いっそ留学して留年することで人生のレールを思いっきり外れてやろうと思っていました。特段、高い志があったわけではありません。

～トビタテ！留学 JAPAN～

トビタテ！留学 JAPAN に応募したのも、お金もらえて安く行けるならその方がいいじゃんという単純な理由でした。想像以上に応募書類の作成が大変で、とんでもないものに足を突っ込んでしまったと思った記憶があります。春休みの人気のない図書館で、孤独に書類作成をしながら、周りの友人が実家に帰省していたり旅行に行ったりしている話を聞き、心底羨ましかった記憶があります。自分自身、なぜ途中で投げ出さなかったのかはよくわかりません。多分、他にやることもなく暇なだけだったのでしょう（笑）。なんせ「人生の夏休み」といわれる大学生です。特段、サークルや部活に力を入れていたわけでもなく、本当に暇を持て余していました。話が逸れたので元の話に戻します。トビタテのコミュニティーは、金銭面の支援だけでなく、同じく留学に挑戦する多くの同世代に出会うことができる、とても貴重なものだと思います。

～アメリカ（交換留学）～

アメリカでは、日本人が私一人でかなりしんどい思いをしました。日本人は複数名いると先輩や先生から聞いていた私は、日本人が自分1人である状況に絶望したことは忘れもしません。そもそも、日本人どころではなくアジア人の交換留学生が自分1人でした。アイデンティティーのやり場に困り、英語も自分だけが聞き取れず、留学初日に日本に帰る飛行機を探しました。おかげで、検索履歴は Sky Scanner だらけになりました。再び話がそれたので、話を戻します。具体的に苦労したこととしては、まず定番ですが、語学面です。私は、人生の夏休みを謳歌していた大学2年次、暇すぎて英検準1級を取得していましたが、留学をした最初の学期は、1回目の授業で内容が全く理解できず、履修する授業の変更を何度か行いました。言語が通じないと、本当に赤ちゃんになった気分になります。アメリカのやたらとでっかいキャンパスを四つん這いで歩いてやろうかと思ったくらいです。また、友達作りにもすっかり苦労しました。やたらとテンション高く振舞ったり、アメリカンジョークを披露したりといろいろと試してみても、2学期目に入るあたりでようやく友達の数が増え始め、最後にはお別れ会をしてもらえ

くらの関係性になりました。私の人柄がいいのでしょうか。(冗談です、アメリカの友達が優しくただけです。) また、手続き面も大変でした。銀行口座の開設や税金申請などは意外と時間もかかり、メンタルも削られました。また、相手の価値観に合わせ、英語ネイティブと英語でコミュニケーションを図ることを毎日続けることは、こんなにも疲れるのかと感じました。私の日本語なまり全開の英語で話しかけて、めちゃくちゃ嫌な顔をされると、繊細な私は傷つきます。たまに強い気持ちでいられるときは“日本人ですが何か？”って思うことで乗り切っていました。

～インドネシア～

インドネシアでは、林業の現場に行きました。行ってみたら、色々と驚きでいっぱいでした。体を洗うときはシャワーがないため桶にたまった水を体にかけました。部屋には蟻やらトカゲやら、たくさんの虫がいました。田舎出身の私でもさすがに驚き、これはすごいところだと感じていました。英語はほとんど伝わらず、私はインドネシア語がわかりませんでした。wifi もつながらず翻訳も使えないため、コミュニケーションに困りました。英語で話しかけると、英語は話せないと心のシャッターを降ろされました。そこで、絞り出した作戦が panas (暑いですね) でとりあえずインドネシア語を話せる人間っぽく振舞うことです。林業の現場は、どこもかしこも例外なく暑かったので、panas は結構便利な言葉でした。もちろん、インドネシア語が話せないことは5秒も話せばばれたのですが(笑)。

～印象に残っているエピソード～

印象に残っているエピソードは、アメリカの交換留学先のキャンパス内で起こった交通事故です。自分がキャンパスを歩いていた時、横を通り過ぎた車が勢いよく看板に激突しました。慌てて運転手の様子を確認しましたが反応がなく、意識を失っているようでした。他の人が救急車を呼び、私は事故発生時の目撃者として、駆け付けた警察官らしき人に事故発生時の事を質問されました。救急車で運ばれる運転手の人を見ながら、「アメリカで救急車を呼んだら高額な料金を請求されるんだよな〜…。この人にはいくら請求されるんだろう。」と心の中で思ってしまい、救急車を呼ぶことってその人にとって正しい選択だったのかといろいろ考えてしまいました。この出来事は、日本の税金制度や社会保障について改めて考えさせるきっかけになりました。

～留学を通して学んだこと～

留学して学んでことはたくさんあります。1つ目は、世界は広いということです。小学生みたいな感想ですみません。頭の良さをアピールするために、留学とひとくくりにとまとめず、アメリカとインドネシアの2つに要素分解して学んだことを書いていきます。アメリカ留学は、正直、辛いことが多かったです。これは、日本人が1人だったことが強く影響していると思います。文化の違いや人種の違い、言語や肌の色の違い。そういったものと1人で向き合い続けることはなかなかしんどかったです。結局、仲良くなったのは、移民だったり、英語以外の言語を学んでいた、留学を経験したことがあるような人で、私の気持ちに共感してくれる人ばかりでした。一方で、インドネシアは、人の温かみに触れる機会がたくさんありました。ニコ

ニコしている人が多く、穏やかな空気感の国でした。生活環境は驚くことばかりでしたが、人のやさしさに触れることができました。価値観が日本と似ている部分も多くあり、安心感も覚ええました。また、英語が通じないという環境も初めてで、英語だけでは繋がれない人もたくさんいるのだと実感しました。

～留学を通じて学んだこと～

留学をお勧めするかと聞かれたら、今はなんと答えていいのかよくわかりません。留学中は、楽しい事だけではなく辛いこともたくさん起こります。ただ、あまり正直に書くと大人に怒られそうなので、留学に行くメリットを書いておきます。留学とは、異文化地域に行って自分がマイノリティーになるとともに、言語が通じない環境下に身を置くことです。それらを通して孤独感、無力感、時として屈辱感を感じることは、自分は何者なのかを考えさせられたり、世界の複雑さを感じるよいきっかけになると思います。これは留学に行く大きなメリットなのではないでしょうか。ただ、留学と一言と言っても、行く国や留学期間、そこで何を体験するのかによって、何を感じて何を得るのが全く異なりますし、人によって感じ方も異なります。私自身は留学に行って学んだ事が沢山あるので、留学に挑戦してよかったですが、楽しかったと言われると返答に困ります。正直、アメリカに行ってから最初の半年くらいはもがき苦しんでいた感覚です。しかし、私は、留学に行ってよかったです。ついでに記しておく、留年して人生のレールを外れられたのもよかったです。きっと、留学前の私だったら、留学体験談をこんなにばか真面目（？）に書くことはとてもできなかったと思います。

～留学に行く方へ～

留学に行く方は、ぜひ毎月目標を立てて新しいことに挑戦し続けてみてほしいです。そうすれば、意味不明で常識はずれな体験に出会える確率が増えると思います。謎に、日本の大企業の海外支社の社長に出会ったり。アメリカで出会った日本人が、たまたま自分と同じ高校出身だったり。言語が通じないのになぜかめっちゃ仲良くなれて、インドネシア語でメッセージのやり取りを帰国後も続けられる人と出会えたり。そういう経験ができたことが、私の何よりの財産になっています。



URI のキャンパスで雪遊びをしていた時



URI でおにぎりのイベントを実施した時



カナダ留学中のトビタテ生のところへ行った時